

2024年 フクシマ連帯キャラバン報告書

この度、3/16～3/20の計5日間、2024年フクシマ連帯キャラバン隊として全日程参加しました。今回がキャラバン初参加となり、福島を訪れるのも初めてでした。

3.11 東日本大震災・福島第一原発事故の時、私は中学3年生の15歳で北海道釧路市も地震や小規模の津波が来たことを覚えています。今でもニュースで流れていた東北地方太平洋沿岸の津波の映像は覚えています。13年という月日が経ち、その記憶は薄くなっています。

まず、3/17～18 被災地フィールドワークでは、「浪江町請戸小学校」、「東日本大震災・原子力災害伝承館」、「浪江町津島地区」等に訪れ、被災地の規模や今もまだ復興とは程遠い現状に圧倒され、勉強不足を痛感しました。避難指示が解除された地域でも放射能測定値が基準値以上であったり、除去土壌が入っているフレコン等が身近にある現状はとても通常の生活ができる場所ではありませんでした。

次に、3/19 茨城県で各自治体に要請行動を行いました。質疑応答の際に、ALPS 処理水放出に対する意見や、原発再稼働に対する意見を質問しましたが、殆どの自治体で国の意見に従うとの回答を受けました。自分の地域の決定権を国に委ねるのはどうなのかと少し悲しい気持ちになりました。

最後に、3/20 全国集会では、6,000人の中、渡邊団長がキャラバンの活動報告を行い、活動を締めくくりました。団長が声を上げた際には、会場の人達から温かい言葉を受け、この5日間頑張った良かったなと思うことができました。

最後になりますが、この5日間は震災や原発事故によって被害を受けた地域の現状についてすごく勉強になりました。申し訳ありませんが、今までは3.11を他人事と感じていましたが、実際に現地を訪れ、13年経った今も悲惨な現状を学び、同じ日本に住む身として他人事とは思えませんでした。今回学んだ事を地元北海道で少しでも広めていけるように頑張っていきたいと思います。

全港湾 北海道 釧路支部

成田 壱皇